

ペヘレイ (PEJERREY) *Odonthestes bonariensis* (C&V) の種苗生産について

石崎博美・岡 彬・小山定久

県内主要湖への放流通種として外来種ペヘレイの種苗生産を、前年度に引き続き実施したので、その飼育結果を報告する。

採 卵

採卵用親魚は3～4年魚の♀575尾(♂545尾)の中から、完熟し産卵可能と思われる魚を順次鑑別しながら使用した。産卵池は屋外のコンクリート池(9m×11m×0.8m)と、屋内の循環濾過池(6m×1.2m×0.8m)2面を使用した。

採卵に用いた親魚と、産卵魚巢の取り揚げ状況は表1のとおりである。

産卵は雌雄を配合した翌日の、5月8日から始まり、6月6日までの間、延べ21回(日)にわたり卵の産みつけられた産卵魚巢の取り揚げをした。

採卵とふ化の状況については、表2のとおりである。採卵数は、発眼率とふ化率の値からふ化仔魚数より逆算して算出したが、その数は約215千粒と推定された。

ふ化は屋内に設置したパンライト水槽(0.5m³容量)6個を使用した。ふ化用水は産卵魚及び仔魚飼育用水と同じ、循環濾過水(汽水比重1.005)を用いた。

卵の管理は、卵収容時にマラカイドグリーン1/30万で、15分間の浸漬を施したが、その後は薬浴等の処理は行わなかった。汽水のために、卵への水生菌の発生は全くみられなかった。

ふ化仔魚は、ふ化後4～5日以内に取り揚げ、飼育池へ収容した。仔魚の計数は、初めに用意した実数1000尾を基準にした比較法により行った。この結果ふ化仔魚数の合計は123千尾と推定された。

ふ化水温は表3に示したとおりで、ふ化日数は、8日～12日であった。

稚魚の飼育

ふ化仔魚は、比較法により計数して表4のとおり、第1次飼育(6/4～7/24まで)を行った。

循環飼育池は汽水による循環濾過飼育を行い、屋外飼育池は淡水の止水飼育により行った。

第2次飼育(7/19)以降は大小の選別を行いながら、循環濾過池と、屋外飼育池を用いて飼育を行ったが、11月初旬までの飼育生残数は14,000尾で、放養尾数に対する生残率は32.8%であった。

表 1 採卵親魚と産卵魚巢取揚げ状況

産卵池	親魚配合状況		魚巢取揚げ数	
	No.1	No.2	No.1	No.2
C-3	♀ 299 ♂ 206		束 95	
B-1	♀ 56 ♂ 56	♀ 34 ♂ 56	24	12
B-2	♀ 56 ♂ 56	♀ 35 ♂ 56	25	12
計	♀ 411 ♂ 318	♀ 69 ♂ 112	144	24

これらの生残魚は、循環池2面（汽水）と、屋外飼育池1面（淡水）を用いて越冬させた。

昭和55年4月には放流のために取揚げを行った。

総取揚数は11,600尾で、取揚魚の平均体型は、42g、全長8.8cmであった。このうち、9,600尾（重量40.7Kg、平均体重4.2g）は、県内の新設人工湖丹沢湖へ放流し、2,000尾は親魚用とした。

餌料

ふ化仔魚の餌料には、シオミズツボムシ、タマジシコ、及び、アユの初期配合飼料を使用した。その後の稚魚には、アユ用の稚魚用配合飼料のみを与えた。

表-2 ペヘレイの採卵ふ化状況

A	採卵期間	昭和54年5月8～6月6日
B	延採卵回数	21回
C	親魚数	♀570、♂545
D	採卵数	215,000粒
E	発眼卵数	146,000粒
F ^E / _D	発眼率	68.0%
G	ふ化仔魚数	123,000尾
H ^G / _D	ふ化率	57.2%

摘 要

1. 継続して飼育中の親魚3～4年魚を用いて、5月8日から6月6日までの間に、21回の採卵を行い、215千粒を採卵した。
2. ふ化にはパンライト水槽（0.5トン）6個を使用し、ふ化用水は汽水（比重1.005）とした。
3. ふ化率の平均は57.2%で、123千尾のふ化仔魚を得た。
4. ふ化仔魚の飼育は、屋内の汽水循環池

表-3 ペヘレイふ化池水温（℃）

月		午前10時	午後4時
5	中	16.6	16.6
	下	19.5	20.6
	上	20.4	21.3
6	中	22.1	23.0
	下	24.6	25.5
7	上	23.0	24.1
	中	22.3	22.2

表-4 ふ化仔魚の放養状況と第1次飼育結果

飼育池	放養尾数	取揚尾数	取揚平均体重	取揚重量	生残率	飼育日数
C-6	79,000尾	24,600尾	0.39g	9,600g	31.1%	45
B-3	16,500	10,000			60.6	35
B-4	24,000	8,100	0.42	3,370	33.8	40
計	119,500	42,700			35.7	

過池（ $6.0\text{ m} \times 1.2\text{ m} \times 0.8\text{ m}$ ）2面と、屋外飼育池（ $9\text{ m} \times 11\text{ m} \times 0.8\text{ m}$ ）1面を用いた。

5. 翌年4月に最終取揚げを行い、11,600尾を取揚げた。このうち、9,600尾を県内のダム湖（丹沢湖）に放流し、残りは親魚養成用として引続き飼育した。